

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	コロナ禍でも届く持続可能な食支援強化事業
事業名(副) ※任意	食支援の拡大に伴う持続可能な体制強化事業

入力数 主 20 字 副 20 字

実行団体名	認定特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン
資金分配団体名	一般社団法人全国フードバンク推進協議会

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/> 領域) 子ども及び若者の支援に係る活動 分野) 子どもの貧困の連鎖を断ち切るための社会的しくみ構築支援
------------------------	---

入力数 49 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_3.すべての人に健康と福祉を
_4.質の高い教育をみんなに
_12.つくる責任つかう責任
_17.パートナーシップで目標を達成しよう

実施時期	2021年 6月 ~ 2022年 2月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> 九州市及び近郊地域)	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	1.経済的困難を抱える子育て世帯 2.子ども食堂に参加している子育て世帯 3.母子寮、北九州市母子寡婦福祉会員のひとり親家 庭など	事業 対象者人 数	8000人
------	---------------------	------------	--	---	--	-----------------	-------

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
当団体は「すべての子どもたちが大切」とされる社会の実現を目指し、「生まれ育った環境のために、満たされた食事ができない、十分な教育を受けられない、寂しい思いをしている子どもを、北九州市からゼロにする」をミッションに掲げ活動している。特に子どもの貧困や孤立、食べられない、教育が受けられない子どもの養育環境をサポートし、生まれてきた誰もが尊厳をもって生活を営むことが出来る地域社会の構築を目的としている。
(2)申請団体の概要・事業内容等
(1) フードバンク事業 (2) ファミリーサポート事業 (3) 地域子ども支援事業 食品ロス削減という環境アプローチと食品ロスを食料として必要な人に届けるという福祉アプローチを活動の柱にしている。経済格差など様々な問題の中で苦しい思い、寂しい思いをしている子ども達を、他団体とも連携しながら包括的に支援し、子どもの貧困を含めた負の連鎖を断ち切れる地域環境を子ども食堂をプラットフォームとして構築している。

入力数 (1) 200 字 (2) 200 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
平成28年北九州市のひとり親家庭実態調査によると、北九州市では5.2人に1人が相対的貧困家庭であるという数字が出ている。中でも母子家庭は経済的に厳しい状況にある。母子家庭総数の14,710世帯のうち54.8%（約8000世帯）が月収15万円未満で生活している。 昨年からのコロナ拡大はこの層を直撃し、もうお金がない、食べさせるものがないという切実な電話が次々に入ってきた。また、上記の層だけではなく、コロナ禍以前は安定した生活を営んでいたが、コロナ拡大によって閉店や失業に追い込まれ、一気に困窮状態に陥った方々からも支援要請が入ってきた。 このような状況ゆえ、想定される要支援者のみに絞り込んで支援しようとするれば、想定外の要支援者が手を伸ばしにくい状況となってしまいうため、広範なグループにアプローチする必要があると判断し、昨年5月に各区役所の子ども家庭相談コーナーと連携して子育て世帯を対象に緊急食料支援を実施した。結果、Line公式アカウントに食料支援を求めて登録された数は定員の300名を超え500名にもなりましたが、5月・8月・12月の3回に渡って緊急食料支援を実施した。しかし今も要支援者の数は増え続けている。 個人支援担当チームも3名から6名に増員したが、ボランティア体制では限界を感じ、専任を置かなければ要支援者へのきめ細かい対応ができない状況になりつつある。 また、フードバンクのない北九州市近郊の地域からも食料支援の要請が増加し、いかにして食品を届けるかも苦慮している。 食品寄贈量も前年の185%増で100トンに迫り、結果、食品保管倉庫も大英産業㈱の協力で自社倉庫を第2倉庫として無償貸与していただいたが、更に増やす必要があり、昨年11月から事務所近くに第3倉庫を賃貸契約して増設した。

入力数 800 字

III.事業内容

(1)事業の概要
<p>コロナ禍で増大する食品寄贈を無駄にすることなく、北九州市及び近郊で増大する要支援世帯にしっかりとお届けし、必要な包括支援につなげるために、まずは食品保管倉庫の整備を含めた管理体制及びトレーサビリティの効率化を図る。2つ目は要支援者がストレスなく食品を受取れるよう、食品配送や受取拠点を含めた流通システムを、行政・企業・大学・社協、それに子ども食堂・パートナー提携している120の福祉施設等と連携して構想を練り、効率化を図る。3つ目は食品管理業務と個人支援の相談業務を滞らせないよう職員1名雇用しゆとりのある支援体制を築く。4つ目は持続可能な運営体制を構築するためのファンディングを強化する。</p>

入力数 299 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>産官学民との多団体連携によって構築されたフードバンクシステムを活用し、北九州市及び近郊地域に、食品寄贈が再廃棄されず、非常時においても費用をかけずに要支援者に食料がしっかりと届けられていること。次に要支援者に寄り添い、ニーズを拾い出して食料支援から包括支援につなげられる連携ネットワークが広がっていること。最後に止めてはいけない活動ゆえ、安定した継続雇用ができるよう資金調達強化されていること。</p>

入力数 198 字

	前年度（2020年4月～2021年3月末）実績		今回の事業実施期間を通じた目標値	
(3) 食品寄贈受け入れ重量（トン）	90	トン	90	トン
(4) 困窮世帯への食料支援件数（延べ数）	3654	件 (延べ数)	3600	件 (延べ数)
(5) 困窮世帯への食料支援に使用する食品の重量（トン）	37	トン	37	トン
(6) 自治体福祉課・社会福祉協議会等、連携する相談機関・窓口の数	30		36	
(7) こども食堂やパントリー等、食品提供先として連携する福祉施設・支援団体の数（自治体福祉課・社会福祉協議会を除く）	121		145	
(8) 食品寄贈元企業の数	158		190	

「食品寄贈元企業の数」はフードバンク北九州ライフアゲインが関わって締結した企業・団体数のカウントとする（2020年度は158企業・団

(9)上記（3）～（8）の「事業実施期間を通じた目標値」を達成するために実行団体が行う具体的な活動（左記の番号は上記の3～8に対応している）	時期
3・7：①食品の受取量が適量より少ない施設に対して調査を実施し、受取やすい状況を作るとともに、新規の受取施設も増やしていく	2021年6月～9月
3・8：②食品寄贈に関心を寄せている食品関連企業を福岡県フードバンク協議会に紹介し、新規の食品寄贈企業を開拓していく	2021年6月～2月
3：③お米を安定的に供給するために、農協の直売所を訪問し、各米作農家さんから年1回程度の約束寄贈をしていただけるよう開拓していく	2021年6月～2月
3：④自社制作したフードドライブハンドブックを活用して、企業や生協等にフードドライブの自主開催及び食品寄付BOXの常設を呼びかけていく	2021年7月～8月、10月～11月
4・5：⑤行政や社協の困窮者相談窓口と連携して、新規の要支援者300世帯に緊急食料支援を行う。またline公式アカウントの登録につなぐ	2021年6月～2月
4・5・7：⑥各子ども食堂や母子寡婦福祉会等が自主開催するフードパントリーと連携し、要支援世帯が見出されたら当団体の定期的な食料支援につなぐ	2021年6月～2月
4・5：⑦新規要支援世帯300世帯を含めたline公式アカウント登録者760世帯に対して、夏と冬の2回、応援食品の配布を行う	2021年7月、12月
4・5：⑧毎月の食料支援を、対象世帯に対して、市内7ヶ所の㈱サンキュードラッグ店舗を受取拠点として行っていく	2021年6月～2月
6：⑤は食料支援案内チラシを設置していただく相談窓口としては保健福祉局「いのちをつなぐネットワーク」「保護課」子ども家庭局「子ども家庭相談コーナー」との連携。受取拠点として各区の社協あるいは寺院、子ども食堂、母子寡婦福祉会に協力をさせていただく	2021年6月
6：⑥は子ども食堂ネットワーク北九州と北九州市子ども家庭局子ども食堂担当部署と連携して、市内子ども食堂と協力して行っていく	2021年6月～2月
6：⑦は夏は毎月の食料支援と同様に、受取拠点として市内の㈱サンキュードラッグ7店舗と母子寡婦福祉会の協力を得、冬はすべて宅配便でお届けする	2021年7月、12月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・統括（役割）全体管理・運営管理 ・担当者4名（役割）会計事務、食品管理、個人支援者対応、行政・企業・各種団体との調整 ・外部協力者1名（役割）line公式アカウントを活用して、要支援者に必要な情報を発信する
(2)他団体との連携体制	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食品寄贈企業の開拓に関しては、福岡県フードバンク協議会、北九州市環境局、子ども食堂ネットワーク北九州家庭局 2. 食品配布における受取拠点に関しては、市内子ども食堂、市内寺院、母子寡婦福祉会、㈱サンキュードラッグ、共生の里 3. 要支援者を食料支援につなぐ窓口に関しては、各区の子ども家庭相談コーナー及びいのちをつなぐネットワーク・保護課、北九州市社会福祉協議会 4. 食品を集めることに関しては、イオン九州㈱、㈱丸久、㈱イズミ、エフコープ生活協同組合、農協他市内の複数の企業 5. 食品を保管する倉庫に関しては、自社倉庫を無償貸与してくださっている大英産業㈱、冷凍冷蔵倉庫無償貸与のエフコープ西港支所、クラレイ㈱
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>食品寄贈量と困窮者支援数の増減において、需要と供給のマッチングが想定外に至ったとき、大量の再廃棄が生じてしまう恐れがある。その状況に備えて、福岡県において新しく2021年度より導入されるフードバンク支援システム（トレーサビリティ）を活用して食品管理を強化していきたい。また、個人情報の漏洩は、毎年1回専門の弁護士に依頼して研修会を実施して内部の意識を高めていく。感染症対策も県や市が作成している基準に準じて実施していく。</p>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
<p>1. 2020年5月に各区役所の子ども家庭相談コーナーと連携して子育て世帯を対象に緊急食料支援を実施した。その時の受取拠点は、北九州市子ども家庭局及び子ども食堂ネットワーク北九州との連携で市内寺院2カ所、市内子ども食堂3カ所、母子寡婦福祉会</p> <p>2. 2020年7月に(株)大英産業に無償貸与していただいた倉庫において、食品箱詰め作業を行い、(株)サンキョードラッグ7店舗と母子寡婦福祉会を受取拠点として、緊急食料支援を行った。</p> <p>3. 2020年6月にクラレイ(株)の冷凍倉庫を拠点として、300世帯の要支援者に対し、ドライブスルー形式で冷凍食品の配布を行った。</p> <p>4. 2020年5月～2021年3月までの期間で、北九州市教育委員会を通して皿倉小学校や今町小学校の協力で計9回の弁当配布、計9回のフードパントリーを行い、延べ1000人に対する食料支援をおこなった。</p>				